

erythromycin ethylsuccinate (JP)

エリスロマイシンエチルコハク酸エステル

マクロライド系抗生物質

614

【基本電子添文】 エリスロシンW顆粒・10%ドライシロップ・20%Wドライシロップ2024年7月改訂

【製品】 規制等：[処方]

エリスロシン Erythrocin W顆粒20%（分包1g） ドライシロップ10%（分包1g） Wドライシロップ20%（分包1g）（ヴィアト リス・ヘルスケアーヴィアトリス）

【組成】 [顆粒]：エリスロマイシンとして20%（力価）

[ドライシロップ]：エリスロマイシンとして10%，20%（力価）

【効能・効果】 <適応菌種> エリスロマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、髄膜炎菌、ジフテリア菌、百日咳菌、梅毒トレポネーマ、トロコーマクラミジア（クラミジア・トロコマティス）、マイコプラズマ属 <適応症> 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髓炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、梅毒、子宫内感染、中耳炎、猩紅熱、ジフテリア、百日咳

效能関連注意 咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、中耳炎：「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照し、抗菌薬投与の必要性を判断した上で、本剤が適切と判断される場合に投与する

【用法・用量】 エリスロマイシンとして1日800～1,200mg（力価）、小児25～50mg（力価）/kg、4～6回に分服（増減）。ただし、小児用量は成人量を上限とする

【禁忌】 ①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②

エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、ジヒドロエルゴタミンメシリ酸塩、ピモジド、ロミタビドメシリ酸塩、クリンダマイシン（注射剤、経口剤）、リンコマイシン塩酸塩水和物を投与中の患者（相互作用①参照）

【重要な基本的注意】 ①使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめる ②急性腎障害（急性間質性腎炎）が現れることがあるので、定期的に検査を行う（重大な副作用⑥参照） 【特定背景関連注意】 ①合併症・既往歴等のある患者 心疾患のある患者：QT延長、心室性不整脈（Torsade de pointesを含む）を起こすことがある（重大な副作用⑥参照）

②肝機能障害患者：血中濃度が上昇するおそれがある ③妊娠婦：妊娠又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与する ④授乳婦：治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討する。ヒト母乳中へ移行することが報告されている ⑤小児等：嘔吐等の症状に注意する。新生児、乳児

で、肥厚性幽門狭窄が現れたとの報告がある ⑥高齢者：用量に留意するなど慎重に投与する。一般に生理機能が低下していることが多い

【相互作用】 本剤はCYP3Aで代謝される。また、CYP3A、P-糖蛋白質を阻害する（薬物動態③参照）

①併用禁忌

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン（クリアミン）	四肢の虚血、血管攣縮等が報告されている	本剤はCYP3Aと結合し、複合体を形成するため、これらの薬剤の代謝を抑制し、血中濃度が上昇することがある
ピモジド（禁忌②参照）	QT延長、心室性不整脈（Torsade de pointesを含む）等が発現するおそれがある	
ロミタビドメシリ酸塩（ジャクスタピッド）（禁忌②参照）	ロミタビドメシリ酸塩の血中濃度が著しく上昇するおそれがある	
クリンダマイシン（注射剤、経口剤）（ダラシンS注射液、ダラシンカプセル）リンコマイシン塩酸塩水和物（リンコシン）（禁忌②参照）	併用してもこれらの薬剤の効果が現れないと考えられる	本剤の細菌のリボゾーム50S Subunitへの親和性がこれらの薬剤より高いと考えられる

②併用注意

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ジソピラミドキニシン硫酸塩水和物	QT延長、心室性不整脈（Torsade de pointesを含む）等が報告されているので、減量するなど慎重に投与する	本剤はCYP3Aと結合し、複合体を形成するため、これらの薬剤の代謝を抑制し、血中濃度が上昇することがある
テオフィリンアミノフィリン水和物	恶心・嘔吐、不整脈、痙攣等が報告されているので、減量するなど慎重に投与する	
シクロスボリンタクロリムス水和物	腎障害等が報告されているので、減量するなど慎重に投与する	
ワルファリンカリウム	出血傾向、プロトロンビン時間延長等が報告されているので、減量するなど慎重に投与する	
イリノテカン塩酸塩水和物	骨髄機能抑制、下痢等の副作用を増強するおそれがあるため、減量するなど慎重に投与する	
ビンカアルカロイド・ビンプラスチン硫酸塩・ビノレルビン酒石酸塩等	好中球減少、筋肉痛等が報告されているので、減量するなど慎重に投与する	
バルプロ酸ナトリウム	傾眠、運動失調等が報告されているので、減量するなど慎重に投与する	
フェロジピン	降圧作用の增强が報告されているので、減量するなど慎重に投与する	
ベラバミル塩酸塩	血圧低下、徐脈性不整脈、乳酸アシドーシス等が報告されているので、減量するなど慎重に投与する	

ミダゾラム トリアゾラム	鎮静作用の増強が報告されているので、減量するなど慎重に投与する		リトナビル	本剤のAUCが上昇することが予想される	中濃度が上昇すると考えられる
カルバマゼピン	めまい、運動失調等が報告されているので、減量するなど慎重に投与する		クリンダマイシン(外用剤)	併用してもクリンダマイシンの効果が現れないと考えられる	本剤の細菌のリボゾーム50S Subunitへの親和性がクリンダマイシンより高いと考えられる
コルヒチン	下痢、腹痛、発熱、筋肉痛、汎血球減少、呼吸困難等が報告されているので、減量するなど慎重に投与する		リバーロキサバン	リバーロキサバンの血中濃度が上昇したとの報告がある	本剤がCYP3A4及びP-糖蛋白質を阻害することによりリバーロキサバンのクリアランスが減少する
シンバスタチン アトルバスタチンカルシウム水和物	シンバスタチン、アトルバスタチンカルシウム水和物との併用により、筋肉痛、脱力感、CK上昇、	本剤がピタバスタチンの肝臓への取り込みを阻害するためと考えられる	フェキソフェナジン塩酸塩	フェキソフェナジンの血漿中濃度を上昇させるとの報告がある	P-糖蛋白質の阻害によるフェキソフェナジンのクリアランスの低下及び吸収率の増加に起因するものと推定される
ピタバスタチンカルシウム水和物	血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とし、急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症が現れたとの報告がある		CYP3A4誘導作用を有する薬剤 ・リファンピシン ・リファブチン ・フェニトイン ・フェノバルビタール等セイヨウオトギリソウ(St.John's Wort, セント・ジョーンズ・ワート) 含有食品	本剤の作用が減弱するおそれがある	これらの薬剤のCYP3A誘導作用により、本剤の代謝を促進し、本剤の血中濃度を低下させる
プロモクリブチンメシル酸塩 ドセタキセル水和物 パクリタキセル セレギリン塩酸塩 シルデナフィルクエン酸塩 バルデナフィル塩酸塩水和物 タダラフィル シロスタゾール	減量するなど慎重に投与する	本剤はCYP3Aと結合し、複合体を形成するため、これらの薬剤の代謝を抑制し、血中濃度が上昇することがある			
プロナンセリン クロザピン ゾビクロン アルブラゾラム エプレレノン エレトリプタン臭化水素酸塩 エベロリムス サキナビルメシル酸塩	これらの薬剤の作用が増強するおそれがある				
ドンペリドン	ドンペリドンの血中濃度が上昇する。また、ドンペリドンとの併用により、QT延長が報告されている				
副腎皮質ホルモン剤 ・メチルプレドニゾロン等	これらの薬剤の消失半減期が延長するとの報告があるので、減量するなど慎重に投与する	本剤はこれらの薬剤の代謝を抑制することがある			
エバスチン	エバスチンの代謝物カレバストチンの血中濃度が上昇するとの報告がある				
エドキサバントシル酸塩水和物	出血のリスクを増大させるおそれがある。併用する場合、エドキサバントシル酸塩水和物の用量は、エドキサバントシル酸塩水和物の電子添文を参照する	本剤がP-糖蛋白質を阻害し、エドキサバンの血中濃度を上昇させるためと考えられる			
ジゴキシン	ジゴキシンの作用増強による嘔気、嘔吐、不整脈等の中毒症状が報告されているので、減量するなど慎重に投与する	本剤の腸内細菌叢への影響により、ジゴキシンの代謝が抑制される			
ザフィルルカスト	ザフィルルカストの血中濃度が低下するとの報告がある	機序は不明である			
シメチジン	難聴が報告されているので、減量するなど慎重に投与する	これらの薬剤のCYP3A阻害作用により、本剤の代謝が抑制され、血			

【副作用】 次の副作用が現れることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には中止するなど適切な処置を行う

- ①重大な副作用 ④偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(頻度不明)：腹痛、頻回の下痢が現れた場合には、直ちに中止するなど適切な処置を行う ⑥心室頻拍(Torsade de pointesを含む), QT延長(頻度不明)：(特定背景関連注意①参照) ④ショック、アナフィラキシー(0.03%)：呼吸困難、胸内苦悶、血圧低下等が現れた場合には中止し、適切な処置を行う ④中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis : TEN), 皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)(頻度不明) ④急性腎障害(急性間質性腎炎)(頻度不明)：(重要な基本的注意②参照) ⑥肝機能障害、黄疸(頻度不明)：AST, ALT, Al-Pの上昇等を伴う肝機能障害や黄疸が現れることがある

②その他の副作用

	0.1~5%未満	0.1%未満	頻度不明
過敏症	癰疹		蕁麻疹、血管性浮腫
消化器	食欲不振、恶心・嘔吐、胃部不快感、下痢	胃痛、腹部痙攣	鼓腸、便秘、膀胱炎
眼			視力低下、霧視

【過量投与】 ①症状：胃腸症状がみられる。また、可逆性の難聴や一過性かつ軽症の急性膀胱炎が現れたとの報告がある ②処置：エリスロマイシンは腹膜透析、血液透析では除去されない

【適用上の注意】 ①薬剤調製時の注意 ④ドライシロップ10%：本剤10gに20mLの水を加え、よくふりまぜると25mLの懸濁液になる。この懸濁液1mLはエリスロマイシン40mg(力価)に相当する ⑥ドライシロップW20%：本剤10gに12mLの水を加え、よくふりまぜると20mLの懸濁液になる。この懸濁液1mLはエリスロマイシン100mg(力価)に相当する ②薬剤交付時の注意：ドライシロップ共通 ④懸濁液調製後は冷蔵庫内に保存するよう指導する ⑥調製後の懸濁液は用時、よくふ

りまぜて服用するよう指導する 【その他の注意】 臨床使用に基づく情報：外国で重症筋無力症が悪化したとの報告がある

【取扱い上の注意】 アルミピロー包装開封後は、湿気を避けて保存する 【保存等】 室温保存。有効期間：〔顆粒〕3年6ヵ月，〔10%ドライシロップ〕4年8ヵ月，〔20%ドライシロップ〕3年

【薬物動態】 ①血中濃度 ②10%ドライシロップ：健康成人に10%ドライシロップ4g〔400mg（力価）〕を空腹時単回経口投与時の血漿中濃度は C_{max} 1.37 μg/mL, T_{max} 31分, $t_{1/2}$ 1.2時間 ③20%ドライシロップ：健康成人に20%ドライシロップ2g〔400mg（力価）〕を空腹時単回経口投与時の血漿中濃度は C_{max} 1.27 μg/mL, T_{max} 42分, $t_{1/2}$ 1.6時間 ④顆粒：健康成人に顆粒2g〔400mg（力価）〕を空腹時単回経口投与時の血漿中濃度は C_{max} 1.12 μg/mL, T_{max} 27分, $t_{1/2}$ 1.3時間 ②分布 ⑤組織移行：扁桃，副鼻腔粘膜，中耳浸出

液，唾液に移行（外国人データ） ⑥血漿蛋白結合率：64.5% (*in vitro*, ヒト血漿, 0.5 μg/mL, 平衡透析法) ⑦代謝：

CYP3Aによって脱メチル化され，des-N-methyl-erythromycinを生じる（ウサギ）（相互作用参照） ⑧排泄：主に胆汁中に排泄され，尿中排泄は経口投与量の5%以下 【薬効薬理】 ①作用機序：細菌の蛋白合成阻害で，70S系のリボソームの50Sサブユニットとの結合による ②抗菌作用 ③体内で加水分解し，エリスロマイシンとして作用し，主としてブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌等のグラム陽性球菌に強い抗菌力を発揮するほか，グラム陰性球菌，一部のグラム陰性桿菌，梅毒トレボネーマ及び肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ）にも作用 ④抗菌作用は細菌により静菌的ないし殺菌的

【性状】 エリスロマイシンエチルコハク酸エステルは白色の粉末である。メタノール又はアセトンに溶けやすく，エタノール（95）にやや溶けやすく，水にほとんど溶けない